Ⅲ.北国のまちの未来予想図　～自分のまちにあてたラブレター～　旭川市

座談会緊急開催！～青年部未来の旭川像を熱く語る～

旭川支部では全道大会での結果を受け、わがまち旭川の将来像を語るべく青年部を中心に座談会を緊急開催した。このような趣旨で集まったのは今回が初めてであり、それぞれの熱い思いをぶつけあった。以下にその時の意見をベースに未来予想図を発表する。

座談会のテーマは「目指せコンパクトシティ」しかし･･･

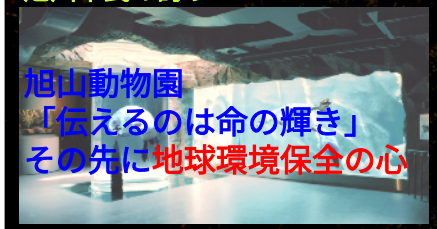
発案者としては、多くの人からコンパクトシティを目指すべきという考えに賛同しくれると思っていた。しかし、座談会参加者の過半の意見は必ずしもそうではなかった。むしろ、「郊外でより自然に親しめる環境を求めたい」といった意見も強かった。だが、みんなその方法は違っても自然を大切にしたいという気持ちだけは同じであった。

コンパクトシティの思想

都市郊外化･スプロール化を抑制し、市街地のスケールを小さく保ち、歩いてゆける範囲を生活圏と捉え、コミュニティの再生や住みやすいまちづくりを目指そうとするのがコンパクトシティの発想である。再開発や再生などの事業を通しヒューマンスケールな職住近接型のまちづくりを目指すものである。

交通体系では自動車より公共交通のほか、従来都市交通政策において無視に近い状態であった自転車にスポットを当てているのが特徴である。

旭川市民の誇り



旭山動物園
「伝えるのは命の輝き」
その先に地球環境保全の心

×

平和通買物公園
そこにあるのは
歩行者優先の思想

⇓

我々には「環境先進都市」をつくる使命がある

微妙・そこそこ良い・色に例えるとグレー･･･これが旭川を表す言葉

そして旭川の未来は「霜降牛のまち？」

自然を深く愛する旭川市民は、霜降牛が赤味に細かく油が入り込むように都市に細かく緑が入り込み身近に自然を感じる微妙なバランスのとれたまちで、環境負荷の小さい質素な生活を営み、歩行者が活き活きと行き交う中で暮らしたいと願っているである！

佐々木部長　メンバー紹介、趣旨及びこれまでの経緯の説明（省略）
太田主査　まちづくり振興課の紹介とコンパクトシティについての説明がある。（省略）
佐々木部長　周辺地域の代表として、木下さんが考える「コンパクトシティ」とはどのようなものですか？
木下さん　コンパクトシティの規模の考え方で大き（変わってくると思う。
旭川市として考えると、駅前周辺地区になると思うが、周辺地域も含めたもっと広い区域でも考えることもできると思う。旭川を中心として、周辺市町村が拠点となり、その拠点がつながっていれば、それもコンパクトシティと言えると思う。
佐々木部長　次に、東川町に住んでいる川田さんはどうですか？
川田さん　出身は旭川で、今は東川に家を建てて主人の母と一緒に暮らしています。東川を選んだ理由は、やはり自然に近く、自然に親しみたいことです。近所の方も移住者が多く、やはり自然を求めて東川に移り住む人が多いと思います。母の知り合いも移住して、東川に住んでいます。
買い物は駅前というよりは、やはりイオンに行きます。コンビニもあるし、スーパーもあるので、日常の生活で不便を感じることがありません。今移住されてきている高齢者の方も自然を求めてきているので、不便を感じることはないと思います。空港が近いという便利な点もあります。
主人の転勤により札幌や釧路などに少し住んだことがあります。釧路で感じたことは山がないことです。これまで大雪山を見て育ってきているので、大雪山の麓で暮らしたいと思いました。
太田主査　移住を考えている方に聞く、やはり大雪山が魅力的だという人が多いです。嵐山からだとちょうど高速道路があり、見ることができませんが･･･
佐々木部長　次に、北見出身の畑田さんはどうですか？
畑田さん　旭川は、北海道の中心にあるので、ちょっと行（のには良い位置にあると思うけど、微妙。旭川に住むなら、札幌に住みたいという人が多かったと思う。旭川は微妙。良くも悪（もな（微妙な感じ。いろんなところに行けるのでよいところだとは思います。
斎藤さん　旭川からほぼ250kmあれば、道内のほとんどのところに行ける。趣味で釣りをするので、日帰りできるので気軽に釣りが楽しめる。
佐々木部長　では旭川の中でどこに住みたいと思いますか？米本部長はどうですか？
米本部長　旭川市の中でも自然が多い春光台を選んだ。旭川に住みはじめて50年が経ちます。結婚、子育てなど年をおうごとに郊外に行（傾向にあります。春光台に住んでいても車があれば不便なことはありません。ただ、飲み行くと車が使えないので不便を感じる。だんだんお酒を飲まなくなってきている。
佐々木部長　澤村さんはどうですか？
澤村さん　僕はほとんど旭川で暮らしている。ずっと住んでいるからかもしれませんが、住みやすいと感じます。車社会については、エコの問題はあるのですが、ドアtoドアで簡単に移動できるという良い点もありますので、それも残した感じでまちづくりを考えてみても良いと思う。コンパクトシティについては、何でも中心部に集約することが良いとは考えていなくて、小さいコミュニティが点在していて、これらを結び透ける道路や公共交通機関がきちんと整備されていれば、良いと思う。これから自分が家を建てて住むとしたら、まちづくりが魅力的で統一的な雰囲気のある旭岡に住んでみたいと思っています。
建築士の活動としては、個人ではできないことをするのが建築士会という組織であると思う。
佐々木部長　全道の役員もやっている祓川さんはどうですか？
祓川さん　少し話がそれるかもしれませんが、最終的には、自分のまちへのラブレターとして、どうしたら自分のまちをもっと良（変えていけるかについて、ボードをもう1枚作成していただ（ことになっています。出来るだけ多（の人に見ていただいて、建築士会の活動を理解してもらうために、道庁のロビーでの掲示も考えている。
キッチプレースには、今話題になっている「旭川は北海道のハブ」というのはどうでしょうか？
今全道各地で移住に対する試みが行われています。近（は実現でもやられている。冬の北海道が好きな人もいれば、夏の北海道が好きな人もいる、そこで1つの家を複数の所有者が利用するハウスシェアという考えもある。旭川市の移住政策で建てた家もコンペ方式でやったら面白いと思う。
コンパクトシティについては、インフラ整備の終わっているところに、人を呼び戻すことが一番簡単な方法だと思う。小樽市では、ものづ（り体験を通じて小樽に来てもらい、1度で完結しないものとして複数回来て貰うような工夫をして、リピーターを作ることもしている。例えば旭川であれば家具のまちなので、家具の製作で、ものづ（り体験としても面白いと思う。何度も足を運んでもらう観光というのもできると思う。そのためには魅力のあるまちづ（りをする必要がある。具体的な提案として、旭川動物園の近（に旭川版キッザニアや旭山動物園の内容の研修を受けることができる研修施設をつ（ってはどうか。
太田主査　実は、既にそういったプランを持っています。旭山動物園の奥にある廃校を利用して、宿泊研修施設としての利用を考えている。今年、科学館と協力して、サマーキャンプを開催しました。
公共で所有し、運営しようとすると、いろいろ面倒なことがあるので、民間主体での運営を考えている。
佐々木部長　旭山動物園周辺の出身の原さんはどうでしょうか？
原さん　その廃校になった学校に通っていました。みなさんの意見と逆で、田舎に住んでいたので街にでたいと思っています。今は旭川の豊岡に住んでいますが、将来は街なかのマンションに住んで、職場にも歩いていけるような状態が理想です。街なかは、もう少し賑わっていてほしいと思っている。賑わいを取り戻すには、商業施設や企業が街なかにできればよいのですが、やはり土地代が高（進出できないのが実情。不況といわれているが、旭川はなかなか土地代が下がらない。この点についての対応も必要ではないか。
佐々木部長　ここまでの話から、田舎で育って将来街なかに住みたい人が多（て、街なかで育つと将来田舎に住みたい人が多い傾向があるように思いますが、斎藤さんはどうですか？
斎藤さん　そういわれると僕はどても中間だと思います。母方の実家が東旭川で農家をやっていて、子供頃はよ（遊びに行っていたので、両方を体験しています。なので、今旭川のどこに住みたいと言われると、街なかでもな（、田舎でもない中間のところが良いです。趣味の釣りもするので、中間のところが便利です。
佐々木部長　ここまでのみんなの意見を聞く、あまり街なか居住としての提案は必要がないのかな。
逆にどうして街なかに来ないのかを聞いてみたいと思います。
川田さん　街なか居住には、正直あまり興味がありません。街にいっても半日時間を潰すことができない。例えば、買い物公園に点々とした見所を作り、それらを巡っていくルートを提案するなど。
木下さん　イオンの店のつくり方と、買い物公園のつくりは似ていると思う。つくりが同じだと、天候や季節に左右されないイオンを超えることは難しいと思う。
斎藤さん　買い物公園に行っても欲しいものがない。見るだけで時間を潰すことができない。もう1つの要因として、スガイが撤退したことが大きいと思う。実際にスガイも郊外に移転している。
中村さん　私は、母の買い物に一緒に、街によく行きます。76歳の母ですが、やはりイオンではなく、西武やさえないなくなってしまった丸井のデパートに行きます。高齢者はイオンのような平行移動は無理なので、デパートの垂直移動のよい。高齢者をターゲットに取り組むのが良いのでは。時代も変わってきているので、今までのように全ての人を対象にするのではなく、ターゲットを絞って考えていくことも必要では。
祓川さん　実際に、ほぼ郊の団地が高齢者をターゲットにその位置に建てられたと思うし、高齢者用の住宅も街なかでしか建てることが出来ないようになっている。
佐々木さん　先ほどから少し話がありましたが、コンパクトシティの規模について、私は、自転車で無理していける距離、多は歩くオーで無理な移動できる距離（らいかと考えています。
？？？？　個人差はあるが、概ね5kmくらいなのでは。
守田さん　5kmといったら春光の家まで（らい。
中村さん　それだと大体納まっているんでは。
太田主査　北海道は、開拓してきた街づ（りとなっているので、広がるまちづ（りをしているところが多い。逆に本州では、市町村合併を繰り返している地域が多く、旧市街地が合わさって出来ているので、形がいびつな地域がある。そのようなところに比べると旭川はまとまっている方だと思う。
佐々木部長　南の方は山があるので抑えられて、北と東が広がってきた。そこが抑えられていたので良かった。
佐々木部長　やはり中心部の空き地やシャッター街が寂し（思う。高齢者はやはり街なか居住の需要があると思う。バリアフリーも進んでいるので、住みやすいと思う。
守田さん　高齢者の住宅の改修の仕事で、高齢者の家に行くこともある。どうして不便なのにこの家に住んでいるのかを聞いてみると、家を簡単に処分できないからという理由だった。中古住宅を簡単に処分、売買できるようにすれば、また違うのかもしれない。コミュニティの問題ある。高齢者の街なか居住には、そのような問題が解決するもっと進むと思う。
祓川さん　高齢者が街なかに住むことは、高齢者の方が住みやすいだけではなく、高齢者を介護するほうにもメリットがある。点々と散在する高齢者の家を、車と時間を使って廻らなければならない。エコという視点からも高齢者が固まっていることはよいと思う。高齢者があこれに対する教室や、お店を展開できると思う。
澤村さん　住み分けは良いことだと思う。先ほども話しましたが、各集落がつながっていれば良い、さらに各集落に特色みたいなものがあっても良いと思う。旭川は観光地として発展することは夢物語だと思う。なんとなくよいものがある旭川が旭川らしいと思う。旭川の人が札幌に買い物に行（のも札幌は都市なのでしょうがないと思う。それなら別のもので札幌にない旭川の特色を作り、逆に札幌から旭川に（るようなものをつくれば、人の流れは確保できるのではと思う。
少し話がそれますが、旭川市内の家はどれも全（統一感がない。先ほども言ったとおり、各集落に特色みたいなものがあれば良い、例えば家の形態制限をかけるなどあってもよいと思う。
佐々木部長　具体的にはどんなものがあれば、旭川に来てもらえるのでしょうか？
佐々木さん　さまざまな話がでました。ここで、今後の士会活動の方針を少し考えてみましょう。
原さん　そこそこよい街で、そこそこまとまっている街である。現状を満足しているのではないが、これ以上悪（ならないようにしなくてはならない。街なかに呼ぶだけではなく、出ていかないようにするのも大事。移住･定住のように人を増やすことばかりではなく、今住んでいる人を残すという考えも必要。
士会活動については、旭川全体を考えると難しいが、ポイント･地域を限定すれば可能だと思う。具体的な活動については現段階では思いつかない。
佐々木部長　木下さんはどうですか？
木下さん　駅前開発（北彩都）が進められているので、駅前の空き地の利用方法を提案してはどうか。
佐々木部長　畑田さんはどうですか？
畑田さん　1年で完結ではなく、1つ1つを数年間かけて完成させる長期的なものが良いと思う。
太田主査　移住者の視点が大事。皆さんの意見を伺った感想としては「そこそこ良いまち」。その良いところを具体的に表現･PRができるかが課題。「田舎」「旭川動物園」など観光資源があるのでそれらも活用し、具体的な暮らしの提案をしていってはどうか。建築士会なので、パースやプランを作ることは簡単にできるのではないか。
佐々木さん　発信の方法としてはどのような方法がありますか。
太田主査　市役所として動けるところもある。まちづ（りの団体とのつながりもあるので、紹介もできる。西神楽に地域でまちづ（りを行っている団体があります。その団体は、1人暮らしのおじいちゃん達を1つの家に住まわせて、共同生活をするなどの活動をしている。
米本部長　本当にやる気があるのであれば、委員会を立ち上げてやってはどうか。
祓川さん　他の支部には、まちづ（り委員会というのがある。
太田さん　どの（らいのスパンで考えていますか。
佐々木部長　2･3年ではな（、もう少し長いスパンで考えている。
太田さん　西神楽のまちづ（り団体を紹介することもできるので、具体化すれば力になれると思います。
祓川さん　では、手始めに太田さんに講演をやっていただき、理解を深めるとよいのでは。
佐々木部長　斎藤さんはどうですか？
斎藤さん　興味はある。何かやってみるべきでは。
祓川さん　さっき現状維持という意見もあったが、現状維持するためには攻めること必要だから、何かやることが必要なのでは？やれる範囲でやっていきたいとも思っている。会員も減っている状況なので、士会としてこんな活動をやっているとアピールすることが必要と考えている。
佐々木部長　最後になりますが、何かあれば。
澤村さん　人口が増えないと繁栄はない。基本的には、人口を増やすことを目的に活動してはどうか。移住･半移住も含めて、新たな人を向かい入れる活動と、それとは別に今住んでいる人を出ていかせない活動を進めてはどうか。
まちづ（りや建築は文化である。その活動には文化的な要素もあれば15に良いと思う。
佐々木部長　何十回と青年部役員会を開催していますが、今回ほど充実した内容となったことはなかったと思います。
最終的な方向性までは決めることは出来ませんでしたが、基本的な道筋は見えてきたのではと思っています。これで終わらず、さらに具体の活動に向けて議論を続けたいと考えています。
長時間に渡り、お疲れさまでした。